

令和元年度 学校評価 最終結果

1 自己評価結果等

本年度の重点目標	(1) ニーズに応じた教育内容の充実 (2) キャリア教育の充実 (3) 視覚障害教育の専門性の向上 (4) 相談体制の充実 (5) 関係機関との連携 (6) 防犯・防災計画の整備 (7) 勤務時間の適正な管理及び長時間労働による健康障害防止		
担当	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
幼稚園部	自立に向けた食事指導の実践	・実態把握及び指導方法の検討を継続的に行い、指導者間で共通理解を図りながら進める。	・一人で、主食や主菜、副菜をバランスよく食べたり、食器を片付けたりできる部分が増えた。
小学部	新学習指導要領の本格実施に向けた視覚障害教育の専門性を基盤とした授業の実践	・児童が外国語や外国語活動を学習するにあたり、問題点や課題を提起し、実態に即した授業の在り方を話し合ったり、教材づくりをしたりする。	・デジタル教材の英語テロップや教科書の単語を確認するために、単語リストやカードを製作した。ゲーム等の活動を取り入れ、児童が興味をもって取り組むことができた。
		・多様で、重複障害のある児童一人一人のニーズに合った学習内容及び学習集団を実践しながら検討する。	・生活面と学習面の評価方法について話し合い、児童の実態をより把握できるようにした。実態に応じた集団で学習したことで児童が互いに刺激しあい、高めあうことができた。
中学部	・社会自立を目指した学習指導、進路指導の充実	・生徒一人一人の実態や障害の状況に応じた指導方法を工夫し、自己学習力を高める授業を目指す。	・補助具の使い方や学習方法のスキルを身に付け、予習復習に自ら取り組めるようになってきた。
		・生徒一人一人の実態を踏まえ、社会自立を目指した自立活動や作業学習等の時間を展開する。	・生徒一人一人の課題について複数の指導者で共通理解を図り、多面的に評価することで、次へのステップにつなげている。
	・生徒が主体的に取り組み、積極的に参加できる学習活動の展開	・行事の計画や準備等をとおして生き生きと活動ができるように支援する。	・文化祭への取組では、生徒自身が考え、意見を出し合う場面が見られた。また、自分たちで目標を掲げ、主体的に取り組む姿が見られた。
高等部	・個別の教育支援計画に基づいたキャリア教育の充実	・個々の教育課程や本人・保護者のニーズに応じた体験活動及び実習等を通して、キャリア教育の推進を図る。	・進路希望調査や実習先希望調査を基に、個々の生徒の特性やニーズに応じた実習先を開拓・提供し、定期的な実習や体験学習などのキャリア教育を行った。また、次年度以降のキャリア教育の充実を目指し、総合的な探究(学習)の時間のプロジェクトチームを構成し、内容等の検討を行った。
	・各学科における進路指導の充実	・産業現場等における実習や治療実習について、部会や科会で情報提供を行うことで、高等部全体での共通理解を図り、適切な運用を行う。	・それぞれの科会において検討した内容を、全体会で連絡し、情報共有を図った。また、進路指導部を中心に、科同士で実習先の情報を共有し、生徒に多様な選択肢の提供を行った。

教務部	・指導案における観点別評価基準の記載の見直し	・新学習指導要領の目標に照らした指導案の観点別評価基準を検討する。	・学習指導案の様式について指導目標を新しい観点(3観点)を考慮して立てその指導目標より評価基準を導く注意事項を記入例等に明記した。
	・諸帳簿のデータ化を進める。	・通知表や出席簿等のデータ化を検討する。	・高等部普通科の通知表は、すべての教育課程で電子化し省略化をすることができた。出席簿については来年度から電子化したものを使用できるよう準備している。
ICT支援部	・読書活動の推進	・読書週間(年2回)の計画、希望図書の購入を行い、読書に親しむ時期と環境を整える。	・長期休暇直前の読書タイムは長期休暇中の読書用の図書を担任と選定する機会にもなり読書に興味を向けさせるきっかけ作りにもつながった。
		・デジ再生アプリとサピエの活用方法の講習会を実施する。	・夏季研修や地域の教員・保護者向けのICTの研修会で紹介を行った。
	・タブレット端末の利用推進	・UDブラウザ(アプリ)の授業貸し出しを計画的に行う。使用者数に適したICT機器の購入計画を立てる。	・タブレット端末のアカウントやアプリを整備し学習に使いやすい環境を整えた。機器の購入を検討し、一部を購入した。
		・タブレット端末の授業実践事例を紹介し有用なアプリの使用を推進し新たな事例を収集する。	・研究授業を行いタブレット端末の使用している様子を共有した。職員にアプリや使い方の情報を周知した。
自立活動部	・ADL指導の充実	・弱視の児童生徒の読み書き能力の向上を図る。	・各種研修会やオープンスクール、各担任からの相談機会を捉え、教材教具の選び方や使い方のアドバイス、指導方法についての助言等を行った。単眼鏡やレンズなどの補助具を中心に、自立活動室の整理を行った。校内にある弱視指導に関する教材・参考資料の収集・共有化については現在進めている状況である。
進路指導部	・校内外との連携支援体制を整えることで、児童生徒の個に応じた進路支援の強化を目指す。	・卒業後の進路に具体的なイメージを持ち、各段階での課題に計画的に取り組めるよう、進路に関する情報が効果的にニーズのある児童生徒及び保護者に伝わる方法を検討・実施する。	・進路に関する情報提供及び早い時期からの職業意識啓発のために保護者に対し進路だよりの発行と講演会を実施した。今年度の取組を踏まえ、来年度に向けてより進路を身近にかつ連携していくものだと感じてもらえるような取り組みを検討することができた。
		・個々の児童・生徒及び保護者のニーズに基づき、進路開拓、校外での啓発を行う。	・ネットワーク作りも兼ね障害者職業センター、千種区障害者自立支援連絡協議会等に訪問・出席し、盲学校及びその進路について啓発できた。A・B型事業所への進路開拓や視覚障害者理解を促進し、将来的な雇用に結びつけるための企業からの学校訪問を実施することができた。
		・在校生の進路指導支援と卒業生のフォローアップのための現状把握を行う。	・夏季休業中を中心に実施し、卒業生のフォローアップとともに課題や好事例を在校生の進路指導や就職活動に生かすことができた。

生徒指導部	・問題行動やいじめ等の早期発見、早期対応	・幼児児童生徒の生徒指導上の問題点について職員間で共通理解を図る。 ・「こころとからだのアンケート」を実施し、いじめ等の早期発見に努める。	・各部において職員間の共通理解を図りながら対応し、必要に応じていじめ不登校対策委員会を開き、対応した。 ・集計内容を部会等で共通理解を図った。
	・防犯・防災への意識向上と整備の充実	・避難訓練や日々の防災教育を通して防災に対する意識を高める。 ・職員の防犯・防災への意識向上を図る。	・訓練を通して防犯・防災への意識を高めることができた。また、それにより現状の課題等を知ることができ、今後のさらなる整備充実の参考となった。
		・多様化する犯罪に対し、防災への大切さを知り、意識向上を図る。	・保護者向けにインターネットの安全利用に関する研修会を開き、啓発活動を行った。次年度は生徒向けで行いたいと考えている。
保健体育部	・安全で衛生的な学習環境の整備	・廃棄物の管理を確実に行う。	・おむつ及び牛乳の廃棄を、状況に応じて方法に変更を加えながら適切かつ確実に実行できた。
	・健康に配慮を要する幼児児童生徒の学校内における対応の整備及び実施	・各委員会において対応を検討し、実施する。 ・感染症の拡大防止に向けた意識の向上を図る。	・各委員会で個々に応じた対応を検討し、適切に実施している。 ・年度当初の緊急時対応訓練では、吐物処理について研修し、方法を確認の上、よりより対応について検討し、マニュアルを作成している。
	・安全な給食の提供	・幼児児童生徒職員の食への安全意識の向上を図る。	・アレルギーに対応した運搬や配膳について、方法を再確認、検討し確実に実行した。 ・毎日の健康調査での配膳の可否の確認について、できていない学級には再度周知し、確実に実行できるようにした。
広報・渉外部	・要覧等の外部向け情報の内容を更新し、充実を図る。	・学校要覧の古い写真や情報を差し替えるなど、内容の検討を行う。	・各分掌及び学部写真に写真を依頼し、学校要覧の刷新に取り組んだ。今後も継続して内容の精選を行い、外部に紹介できる要覧作りを目指していきたい。
	P T A 委員会活動の推進	・P T A 委員会の組織に合わせた活動内容を見直し、多数の参加が臨める活動の充実を図る。	・学校と P T A の連携によって、P T A 活動の充実を図ることができた。研修会等の参加人数は、昨年度より上回った。
地域支援部	・早期教育相談の充実	・幼稚部体験や個別相談などの相談体制を整える。	・他の分掌の協力を得ながら保護者教室を実施したことで幅広い情報提供が行えた。参加者の増減に対して、円滑に実施できるよう体制を整えたい。
		・乳幼児教育相談パンフレットを作成したり、教育相談の内容をホームページに掲載したりする。	・乳幼児教育相談の年間予定表を添えたパンフレットを配布し、園長会議の場で、直接説明ができたことで、教育相談に繋がるケースがあった。次年度も継続したい。

研修部	・充実した現職研修の実施	・計画的に現職研修を実施する。	・教務部と連携して教育課程に関する研究・研修の時間を設定したり、夏季全校研修を早期から計画したり、県外出張報告を早期に行ったりすることができた。
		・新転任者講習、夏季休業中の研修講座を実施する。	・他分掌の協力を得て、講習や講座を実施し、研修講座では県外や他校からも含め多くの職員が参加した。
寮務部	・寄宿舎生活支援の向上	・新しい「ADLチェックリスト」を用いて課題を把握し、舎生の実態に応じた個別の生活支援計画を作成する。	・ADLチェックリストを活用して、個別の生活支援計画の目標や手だてを作成し、継続的な指導ができるよう努めた。
		・職員研修を通じて、生活指導の専門性向上を図る。	・歩行や生活支援に関わる職員研修を行い、専門性向上を図った。校内外の研修報告会を設け、他職員にフィードバックすることができた。
	・舎生指導・相談体制の充実	・定期的に舎生の情報交換を図るとともに、必要に応じて事例検討会を開催する。	・学校生活や寄宿舎での様子をデータ記録し情報共有できる体制を整えた。また各学期に事例検討会を開催し指導体制の充実に努めた。
理療部	・理療分野における就職先の拡充	・資格試験対策の充実	・7月、11月、1月に国家試験模擬試験を行った。その後の授業や補習の内容、教授方法を定める上で、模試における科目ごとの成績を分析した結果を活用した。受験生全員が合格点を十分上回る成績を修めることができた。
総合評価	<p>重点目標の達成に向け、中間評価及び保護者アンケートを実施しその評価結果を生かし、具体的方策の改善を図りながら全教職員で取り組み、成果を上げることができた。</p> <p>校務分掌組織を再編し、効率的な学校運営を進められるようにした。今後、学校規模の縮小が予想されることから業務の効率化をさらに進める必要がある。</p>		

2 学校関係者評価結果

学校関係者評価を実施した主な評価項目	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育の充実 ・相談体制の充実 ・勤務時間の適正な管理及び長時間労働による健康障害防止
自己評価結果について	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育の充実に向けた児童生徒の多様な体験の推奨 ・盲学校の理解啓発における名盲オープンキャンパスの有効性 ・教職員の勤務時間外の勤務を減らすための工夫の必要性
今後の改善方策について	<ul style="list-style-type: none"> ・名盲オープンスクールの有効性の評価と取組の整理
その他（学校関係者評価委員から出された主な意見、要望）	<ul style="list-style-type: none"> ・個々のニーズに対応した進路情報の提供方法の工夫 ・タブレット端末等のICT機器の有効な活用の推進 ・名盲オープンスクールの取組整理と有効性の評価
学校関係者評価委員会の構成及び評価時期	<ul style="list-style-type: none"> ・学校評議員5名（PTA会長を含む）により2月に実施